

働きたいと願う人たちがいる。

それを叶えてあげたいと願う人たちがいる。

知的障がい者の就労支援という
人と人が真剣に向き合う現場
1年半の取材の中で見たものは：

北川希 監督作品

プロデューサー：酒井邦一

撮影・編集・語り：北川希

監督補佐：田中幸夫

整音：岩井寿光

協力：一般社団法人 大阪ビルメンテナンス協会

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部大阪府済生会

企画：大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合

(エル・チャレンジ)

製作・配給：フルーク映像株式会社

2011年/日本/ DV / カラー / 55分

ドキュメンタリー映画

モッ^{ほうき}と^箒箒

—大阪発の障がい者雇用—

四西から

文化力
POWER OF
CULTURE

厚生労働省推薦

知的障がい者が社会の中で働く

知的障がい者は簡単な仕事しか出来ないと思っていた。
コミュニケーションができないと思っていた。
仕事をしても戦力にならないと思っていた。

こんなにも一所懸命で、厳しく、やさしく、面白い、
こんな就労支援があるとは思ってもしなかった。

息抜き

「訓練も大事。でも上下なしに遊ぶのも大事。」
「今、恋してる。」

訓練現場

「訓練しに来てんねんやろ！ちゃんとしな！！」

「私たちと同じ生活をしてほしい。」

「就職するよ。結婚しなあかんから。」

受け入れ側

「不安。」

「今まで、障がい者を避けてきた。」

エル・チャレンジとは

正式名称「大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合」
1999年(平成11年)発足。「エル・チャレンジ」は愛称で
“Labor-Challenge=働くことに挑戦する” という意味がある。
障がい者施設以外の公共の建物を中心に、
清掃業務を通じて約一年間の就労訓練を行う。
発足以来 400人以上が一般企業(主に清掃作業)に就職した。
2002年の地方自治法施行令の改正に伴い、
大阪府に働きかけることで総合評価方式が採用された。

総合評価一般競争入札とは

Scene: 大阪府庁・大阪役所・堺市役所など

2003年から大阪府の清掃業務の落札者決定基準が変わった。
価格の競争だけでなく、積極的に障がい者の雇用を行う企業が
落札できる総合評価一般競争入札制度が実施された。
現在では、18施設で70人以上の知的障がい者の雇用に加え、
100人以上の障がい者以外の就職困難者の雇用も進んだ。
この制度は大阪府下の自治体をはじめ、府外にも広がっている。

支援スタッフ

「成長するのを見るとうれしい。」
「自分と向き合う仕事。」
「就職したらツレになる。」

離職…戻れる場所

「人間関係が合わなかった。」
「ダメになった時にどう支えるか。」
「なぜ辞めることになったのかわからなあかん！」

就職後

「辞めない。探してもらって就いた仕事だから。」

再チャレンジ

「前の職場でイジメに遭い心を閉ざしていた。」

指定管理者制度とは

Scene: 二色の浜公園など

2003年の地方自治法改正に伴い、自治体が住民の福祉増進を目的として設置した施設(「公の施設」)を、
民間事業者・団体等を指定して管理運営させる制度。大阪府では指定管理者の選定基準に於いて、
当該施設で知的障がい者の雇用(行政の福祉化)等に積極的な企業に一定の加点を行っている。

障がい者雇用促進法とは

働き口の少ない障がい者の雇用を促進するために用意された制度。
企業や地方自治体などは、常勤の従業員のうち一定割合の障がい者を雇用することが義務づけられている。

一般の民間企業では常勤の従業員うち 1.8% 以上、国または地方公共団体の機関では 2.1% 以上の
障がい者を雇用・採用しなければならない。
すなわち、従業員数56人以上の企業や、職員数48人以上の公共機関に障がい者の雇用義務がある。

しかし、企業などが障がい者の雇用義務に違反したとしても、罰則は定められていない。
納付金さえ出せば、障がい者の法定雇用率を達成できなくても行政によるおとがめはない。
逆に、一定比率以上の障がい者を雇用する企業などには、調整金が支給される。



障がい者雇用の場は広がりつつあるといわれている。
が、働きたいのに働けない障がい者はまだ数多く存在する。
エル・チャレンジに関わった知的障がい者と支援者の姿を
一年半に亘り密着取材した本作品。
そこには、障がい者雇用の固いイメージはなく、
人と人とのつながりの中にぬくもりがあった。
人と人とのつながり・・・
つながりの中でこそ成長・・・

社会の中で働くことの意味を、今一度 問いかけたい！

監督プロフィール



北川希

- 19XX年 大阪南部に生まれる (将来の夢は、チンピラ、焼きそば屋、ボクサー、美容師…)
2005年 ふわ～っとしてたころ、田中幸夫監督と出会う 映像の世界へ
「未来世紀ニシナリ」【2007年度キネマ旬報ベストテン3位】三脚持ちからスタート
(いきなりカメラを回せと言われ、膝ガクガク… 1カット採用!うれしい…)
2006年 「落語笑散歩」制作進行・ADとして参加 (制作の行程を把握、落語に詳しくなる…)
「テレビ東京 ガイアの夜明け」ADとして参加 (初テレビの仕事 変に緊張…)
2007年 「知的障がい者と雇用への道」撮影・演出 (障がい者雇用に興味を持つ…)
2008年 「グローバルに生きる」初インドロケ (予想通り腹をこわす。帰路、この仕事で生きていくか、と思いはじめ…)
「ハンセン病患者の里帰り」演出・撮影 (チンピラになる夢をあきらめる…)
2009年 「日本の忘れ物～塩飽諸島本島ものがたり～」【芸術文化振興基金助成作品】瀬戸内海の小島に1年半通う
(朝採れる海のものをおいしく、悦楽取材…)
「音楽ドキュメンタリー PAK-POE」ソウルでの映画祭に参加
「部落の心を伝えたいシリーズ」福岡・徳島・鳥取・滋賀・新潟を飛び回る
その他 フルーク映像制作の作品に AD・CG・演出などで参加
2010年 「モップと箒」初監督 (大変…でも面白い…)

メッセージ



エル・チャレンジ
理事長 富田一幸

◎就労支援の社会化

「介護の社会化」という言葉が日常化したのは、エル・チャレンジが結成された頃からだった。
あれから13年ほど経て、いま「就労支援の社会化」と模倣したとしても、さほど違和感はない。
なるほど働きたいけど、働けていない人が2000万人とも推計される時代だから、さもありなんだ。
「社会化」という以上、支援を受ける側からは「尊厳」が、支援する側からは「探究」が
醸し出されなければならないのは当たり前で、それは介護の場合と同じだ。
この映画はきっと、そういう時代を先読みしようとしているのだろう。
かつて「一周遅れ」と錯覚していた知的障がい者の就労支援が、実は一周先を走っていたのではないかと。



2011年 9月10日(土)より 公開

11日(日) 19:40～ 上映+スペシャルイベント開催
支援スタッフと監督のトークショー 会場:シネ・ヌーヴォ

9/10(土)～9/16(金)	11:10	12:25	13:40	14:55
9/17(土)～9/23(金)	18:45	20:00	—	—
9/24(土)～9/30(金)	13:15	14:30	—	—

◎特別鑑賞券 1,000円(税込) 好評発売中

◎当日一般 1,200円 ◎学生 1,000円 ◎高校生・シニア以下 800円
前売券は、劇場窓口、チケットぴあ、セブンイレブン、サークル、Kサンクス(以上Pコード463-022)他にて

※上映詳細は劇場にお問い合わせください。

フルーク映像: <http://www.flugeizo.com/>

エル・チャレンジ: <http://www.l-challenge.com/>

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩3分
阪神なんば線「九条駅」2番出口徒歩2分
シネ・ヌーヴォX
TEL.06-6582-1416
大阪市西区九条1-20-24
シネ・ヌーヴォ内 2F
<http://www.cinenouveau.com/>

